鹿児島市立病院だより

・病院長挨拶
・熊本市民病院の看護師を迎えて
・消化器外科紹介
・病棟紹介
　８北病棟
　７北病棟
・乳腺外科婦人科検診紹介
・摂食嚥下サポートチーム紹介
・臨床工学科紹介
・がんサロン公開講座紹介
・初診予約紹介

病院広報・医療連携誌

平成２８年１０月　第２３号

ご　挨　拶

鹿児島市立病院長
坪内　博仁

朝夕急に涼しくなってきましたが、この市立病院だよりが皆様のお手元に届くのは秋たけなわの季節ではないかと思います。平素より、医療連携を通して、皆様方には大変お世話になっています。本当にありがとうございます。

さて、当院は、平成２８年7月から紹介状の無い初診患者さんから３，２４０円（消費税込）の選定療養費をいただいております。幸い大きな問題もなく、7月の外来患者数は約１０％減少しましたが、紹介率は初めて７０％を超えました。外来の予約制も診療科により差があるものの、少しずつ進み、外来の混雑も緩和されてきたように思います。今後も患者さんにそして地域の医療機関の皆様方に利用していただきやすいよう業務改善を図り、地域の基幹病院としての役割を果たしながら、地域医療支援病院の承認を受けたいと思っています。

当院は、昨年新病院の開院にあわせ、乳腺外科を新設し、消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、膵臓がん）、肺がん、前立腺がん、子宮がん、頭頸部がんなどほとんどすべての領域のがんに対応できるようになりました。とくに、乳がんは増加の著しいがんであり、１１月から乳がんと子宮がんを一日で検診できる体制をスタートさせる予定です。従来1階の外科の中にあった乳腺外科を2階の産婦人科のブースに配置し、患者さんのご希望により女性医師や女性検査技師が診察や検査を担当します。詳細はホームページに掲載予定で、医療連携室でも対応いたします。患者さんから乳がんや子宮がんの検診や精密検査のご相談がある場合には、ご紹介いただければ幸いです。市の検診や検診異常による精密検査の際には、紹介状は不要で、選定療養費の対象にもなりません。ただし、原則予約制になっていますので、医療連携室を通して予約していただくようお願いします。今後、地域がん診療連携拠点病院として、包括的・総合的ながん診療体制を作っていきたいと思っています。

また、現在、鹿児島市立病院の将来構想について、院内で議論し、鹿児島市病院事業経営計画の見直しも進めています。当院の経営計画は平成２５年３月に策定され、当初の予定では平成２９年度に見直す予定でした。しかし、新病院になり、当初の計画に比べ医業収益や医業費用の大幅な増加などがあり、本年度見直すことにいたしました。また、鹿児島県の地域医療構想の作成が進んでいますが、当院は引き続き高度急性期・急性期の医療を担う見込みです。地域医療構想や当院の将来構想を十分考慮して、事業経営計画を策定したいと考えています。事業経営計画案が作成されましたら、パブリックコメントを求める予定ですので、コメントをいただければ幸いです。

これから秋が深まり、過ごしやすい季節を迎えることと思います。皆様方のご健勝を心よりお祈りします。

（平成２８年9月1日）

熊本市民病院の看護師を迎えて

看護部
NICU師長　**中久保　きみ代**

「今ドクターカーが熊本に向かっていて、夜が明けたらヘリが飛ぶ予定です。もしかしたら10人くらい受け入れになるかもしれません」

4月15日未明、スタッフからの電話で私は病院に駆け付けました。熊本市民病院のNICU・GCUの子どもたちはすべて院外へ避難すると聞きました。できることは何でもしたいとスタッフ皆で一致団結して運ばれてくる子どもたちの受け入れに奔走していました。あれから5ヶ月になろうとしていますが、熊本から受け入れた7名の子どもたちもすべてご自宅に帰られ、いつものNICUに戻っています。

そんな中、熊本市民病院職員の受け入れの話を頂きました。

8月1日、6人の方が看護部に来られました。熊本市民病院では産科や周産期センターに勤務されていたそうです。当院では4南病棟に助産師1名、4北病棟に助産師2名、NICUに看護師1名、GCU・回復室に看護師2名配置となりました。同行してこられた副看護部長の6人の身を案じる姿、まるでお母さんのような心のこもったご挨拶がとても印象的でした。ばらばらになった職員一人一人にきっとこうやって心配りをされておられるのだろうと胸が熱くなりました。

6人は熊本市民病院が用意したマンションに住み、徒歩や自転車で通勤して、徐々に鹿児島の生活に慣れてきた様子です。中には家族を残して単身赴任の方もおられます。被災した中、大変な思いをしながらも、スタッフの一員として元気に頑張ってくれています。鹿児島の自然、歴史、人との触れ合いを楽しんで、鹿児島を第2の故郷と思ってくれるならこれ以上の喜びはありません。縁あってこられた6人の方々が、安心して過ごせるように看護部全体で支えていきたいと思います。

消化器外科紹介

消化器外科
科　長　**中　村　　登**

鹿児島市立病院の外科は旧病院では一般外科として診療しておりましたが、平成27年５月に新病院となり、呼吸器外科および乳腺外科が新たに診療科としてスタートしたことを受け、同年7月より外科は消化器外科へと診療科名を変更し、より専門性を発揮すべく体制強化がなされました。それに合わせて医師数も増員され、濵田副院長をはじめとして9名のスタッフで消化器関連の多岐にわたる疾患へ対応できるようになりました。

当院は「がん診療連携拠点病院」であり、坪内院長が当院のがんセンター化を推進されていることから消化器内科の拡充も図られ、最先端の技術を駆使した診断・治療が行われており、症例数が急増しております。当科は、これに対応しながらも、消化器外科における先進的技術を積極的に取り入れています。2016年1月から６ヶ月間の全身麻酔症例数は383件と当院での当科規定手術枠を超えるペースです。全症例中の腹腔鏡・胸腔鏡下手術が61%となっており、市立病院特有の進行・重症例が多い中でも、常に鏡視下手術の可能性を追求しています。その中でも、消化管手術では消化器内科と連携し、胃腫瘍に対して県内でも少ないLECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）に積極的に取り組んでおります。消化器内科医により内視鏡で胃粘

膜側から、当科医師により腹腔鏡下で胃漿膜側から挟み撃ちにして腫瘍を安全に切除する手技を組み合わせて行いますが、今後このようなcooperative surgeryが増加すると思われます。通常の腹腔鏡手術率においても胃腫瘍：59%、大腸腫瘍：60%と過半数は鏡視下手術が行われています。肝胆膵手術においては良悪性いずれの疾患においても血管合併切除・再建を含めた高難度手術から腹腔鏡下手術までを幅広く行っております。また、一般診療で多い鼠径ヘルニアに対しても腹腔鏡手術を導入してから数年が経過しますが、患者様の要望にも応えながら腹腔鏡手術率は60%以上まで上昇してきました。さらに当院は救命救急センターを有し、ドクターヘリとドクターカーによる対応が救急専門医によってなされていることから外傷を含めた消化器関連の緊急手術にも迅速に対応しています。待機手術は1週間の症例を毎週木曜日に放射線科、臨床病理科及び手術室スタッフと術前症例検討し、術後報告や緊急手術症例は毎朝の消化器外科カンファランスにて提示されます。さらに、月1回の消化器疾患合同カンファランスでは、消化器外科、消化器内科、放射線科、臨床病理科が一堂に会し、術後症例を中心に診断から治療まで示唆に富む症例についてdiscussionし、各科にフィードバックできる機会となっており、連携強化に繋がっています。

当科は日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設でもあり、外科および消化器外科の専門医を育成する医療機関ですので多岐にわたる豊富な症例を経験した消化器外科医が育っており、日本内視鏡外科学会技術認定医や日本肝胆膵外科学会高度技能指導医のもとでさらに高い専門性を有するスペシャリストの育成にも努めています。このような当院の環境下で毎年、30名以上の初期臨床研修医が熱心にトレーニングを行っていますが、次世代を担う若い医師の目標となれるよう人材育成にも注力しているところでございます。

今後とも皆様のご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

外来担当医

月	火	水	木	金
交　代	中　村　　登	交　代	濵　田　信　男	交　代
	坂　元　昭　彦		柳　　政　行	
	本　髙　浩　徐		九　玉　輝　明	

月、水、金は定期手術日のため交代で担当しています。

病棟紹介　8階北病棟

8階北病棟
看護師長　竹ノ下　時子

8階北病棟の自慢は、病室から見える景色の良さです。病室からは、桜島、鹿児島大学農学部の田園風景（馬も散歩しています）が見えます。時間ごとに、姿を変える桜島を見て、ある患者様は「私は、朝の光を浴びて輝いている桜島がすきです」と言われました。桜島、田園風景が、病気の癒しになる病棟です。

さて、景色ばかりの話だけでなく、私たちが病棟で頑張っている姿や、担当科について紹介します。8階北病棟は、病院移転で新しくできた病棟で、昨年12月の病棟編成で神経内科が加わりました。耳鼻咽喉科は、医師4名で手術を月約40件、眼科は医師4名で手術を月約80件行っています。看護師27名、看護補助者3名が毎日、入院・退院・手術対応と走り回っています。

耳鼻咽喉科は、癌の患者様が中心で、治療としては、手術、化学療法、放射線療法があります。県内に入院施設が少ないため、離島をはじめ大隅半島からも多くの方が入院されます。頭頸部がんの手術や放射線療法を受けると、2～3ヵ月の入院になることもあり、受け持ち看護師は、よき相談相手となるようにしています。

眼科は、高齢者人口が増えたこともあり、白内障手術の方が多く入院されます。網膜剥離の緊急入院にも毎日のように対応しています。昨年から、加齢黄斑変性治療にビスダイン療法（光線力学的療法）を開始しました。ビスダイン療法は①光に反応する薬剤（ビスダイン）を静脈注射した後②病変部にレーザーを照射します。治療後5日間は、日光などの強い光を浴びないよう注意しなければなりません。そのため、病室を出ないように注意し、出るときは、頭の上から足の先まで、衣服で覆います。入院中患者様は、暗幕をひいた暗い病室で過ごすことになります。看護師は、日常生活に支障をきたさないようケアを提供しています。

神経内科は、重症筋無力症、脳症、髄膜炎など、意識レベル低下や体が不自由となる事があるため、寄り添い、思いをくみ取ることが重要になります。

看護師は、多岐に渡る患者様に対応する必要があります。これからも医師と看護師が協働して、患者様に寄り添った看護ができるように取り組みたいと思っています。

病棟紹介　7階北病棟

7階北病棟
看護師長　**榎本　けい子**

7北病棟は整形外科21床・形成外科15床・乳腺外科5床・救命科2床・共通5床からなる48床の混合病棟です。

朝9時、「ガーゼ交換始めるよ」元気な掛け声からいつもの朝が始まります。マスクとエプロンを着けた医師と看護師がチームに分かれ、シャワーを済ませた患者様から手際良く連携しガーゼを換えて行きます。ガーゼや包帯の巻き方はほれぼれするような出来栄えです。

整形外科医師5名・形成外科医師5名・乳腺外科医師3名・救命科医師8名と看護師28名・看護助手5名の大所帯ですが、関連ある診療科が集まり、和気あいあいと仲良く連携を取っていることが最大の強みです。平均年齢36歳の経験豊富な看護師が揃い、「患者様のためにがんばるぞ」と意気込みある、明るく元気な病棟です。

入院患者は乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層です。整形外科は外傷の急性期治療、骨折、靭帯損傷、骨切り術、人工関節置換術や保存的治療を行い、先天性疾患など専門外来の小児整形があります。形成外科は熱傷・難治性潰瘍・切断指の接着・褥瘡・先天性疾患・乳房再建など手術治療が行われ、乳腺外科は初期の診断から手術、化学療法、放射線治療などが行われています。救命センターから、整形外科・形成外科に紹介される事例は少なくありません、各診療科と連携し治療を進めていきます。要請があれば時間を問わず、フットワーク軽く駆けつけ何時間にも及ぶ手術に対応します。

地域包括支援システムを受け、当院も高度急性期病院へと機能分化が進んでいます。地域の病院にとって市立病院の果たす役割は大きく、期待に応えられる病院でなければなりません。「安心安全かつ質の高い医療の提供」が病棟目標です。医師を交えての勉強会や多職種を交えたカンファレンスを定期的に行い、切磋琢磨し、院内外の研修にも積極的に参加しています。

今年、リオオリンピックが開催され熱戦が繰り広げられました。私たちも患者様の笑顔の金メダルをもらえるように頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

乳がん・子宮がん検診が1日で受けられます！

この度、鹿児島市立病院では、乳腺外科と婦人科が連携して、乳がん検診と子宮がん検診の両方を一日で受けられるようにいたしました（毎週金曜日）。さらに、ご希望の方には、女性医師・女性検査技師が診察・検査を担当します。

診療時間：毎週金曜日　8：30～11：00
診　察　医：【乳腺外科医師】永田彩子【婦人科医師】谷口博子、池畑奈美
検査内容：乳がん検診；診察、超音波検査、マンモグラフィー
　　子宮がん検診；診察（内診）、細胞診（子宮頸部および子宮体部）、超音波検査
検査費用：検査内容によって異なります。詳しくはホームページをご覧ください。
　　鹿児島市立病院トップページ⇒「乳がん・子宮がん検診について」
※いきいき受診券、無料クーポン券をお持ちの方は忘れず持参して下さい。
所要時間：約2～3時間
受診方法：完全予約制です。ご希望の方は、下記予約窓口で電話予約をお願いします。
　　鹿児島市立病院医療連携室　Tel 099-230-7103（Fax 099-230-7101）
当日のご注意：病院の1階総合カウンターに予約時間の少し前にお越しください。女性専門の診療スペースは2階Fブロックです。乳がん検診、子宮がん検診の順に検診します。

≪ご注意≫

●金曜日以外で乳がん検診・子宮がん検診を同時に受けたい方、乳がん検診および子宮がん検診のどちらか一方を受けたい方は、それぞれの予約をお願いいたします。
○乳がん検診予約：鹿児島市立病院連携室　tel：099-230-7103（直通）（9：00～17：00）
○子宮がん検診予約：鹿児島市立病院産婦人科外来　tel：099-230-7000（内線 2260,2262,2263）（15：00～17：00）
●金曜日以外は女性医師・女性検査技師が対応できない場合があります。

婦人科診察室

マンモグラフィー撮影室

「摂食嚥下サポートチームの紹介」

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
西園　さつき

「摂食嚥下サポートチーム」の立ち上げは、異動されてきた歯科口腔外科医師から、「院内では摂食嚥下チームは存在しないのか?」と言語聴覚士（以下ST）が質問を受け、そのSTから「チームを立ち上げるにはどうしたら良いか」と相談を受けたことがきっかけでした。

2014年４月、チーム企画書を作成し、上司に相談しながら、歯科口腔外科医師、耳鼻咽喉科医師、脳神経外科医師、管理栄養士、歯科衛生士に交渉し、STを含め８名でチームを結成に至りました。８月より毎週水曜日の16時30分～17時15分の間に、摂食機能訓練患者を中心に院内ラウンドを開始しました。９月には、リハビリテーション科医師も加わり、チーム活動が本格稼働しました。

嚥下障害の原因としては、脳卒中やパーキンソン病などの神経や筋肉の病気、あるいは舌・咽頭・喉頭癌などがあります。食物の通路の構造に問題があり、通過を妨げている「器質的原因」や、食物の通路の動きに問題があり、上手く送り込むことができない「機能的原因」と「心理的原因」があります。

患者ラウンドでは、歯科口腔外科医師により口腔内を診察し、口腔ケアや歯のぐらつき、義歯調整の必要性を判断し、必要時、歯科受診を勧めます。また、嚥下評価については、耳鼻科医師が、嚥下造影検査（VF）/嚥下内視鏡（VE）の適応か否かを判断し、それに加えSTの訓練の進捗状況と管理栄養士と食事形態の変更など、チームとして総合的に評価し、主治医へ連携を図り対応しています。誤嚥を予防することにより、合併症予防、術後経過への影響、早期退院・在院日数の短縮に繋がります。

「おいしく食べることがよりよく生きること、口から食べることは人間にとって最も大事にしなければいけないこと」と実感してきたからこそ大切にしたい。もし、目の前の患者さんが自分自身だったら?と想像して、食べる可能性を最大限に支援できる看護がしたいですね。

今後は、院内ラウンド依頼方法を検討しコアメンバーの育成は勿論、サポートチームに参加して下さる看護師をお待ちしております。今夜は、何を飲み、何が食べたいですか?

臨床工学科の紹介～医療機器の操作と管理～

臨床工学科
主　査　木　原　功　普

臨床工学科は川﨑副院長を科長とし現在８名（常勤６名、非常勤２名）の臨床工学技士で業務を行っています。医療機器は院内のあらゆる場所にあり、急性期医療を行う施設ほどその種類や数が増えてきます。当院も多種多様の医療機器が数多くあり、私たち臨床工学技士はそれらを適切に操作、管理するべく院内の多くの部署で働いています。

臨床工学技士は病院内で、医師・看護師や各種の医療技術者とチームを組んで生命維持装置の操作などを担当しています。また、医療機器が何時でも安心して使用できるように保守・点検を行っており、安全性確保と有効性維持に努めています。当院での主な業務は次のとおりです（写真）。

- **呼吸治療業務**
  人工呼吸器が稼働している場所へ行き、適切に装置が使用されているか、また、装置に異常がないかなどを確認します。
- **人工心肺業務**
  心臓手術の際、心臓や肺に代わる働きをする体外循環装置（人工心肺）を操作・管理します。
- **血液浄化業務**
  血液透析療法、血漿交換療法、血液吸着療法など様々な血液浄化療法を行っています。
- **集中治療室業務**
  人工呼吸器や持続的血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作や管理などを行います。
- **心血管カテーテル業務**
  EPS・ABL（心臓電気生理学的検査・高周波心筋焼灼術）装置の操作などを行います。緊急時には補助循環装置やペースメーカなどを操作することもあります。
- **高気圧酸素治療業務**
  腸閉塞や一酸化炭素中毒などに用いられる高気圧酸素治療装置の操作・管理などを行います。
- **医療機器管理業務**
  様々な分野で使用される医療機器を安全に使用できるように、また機器の性能が維持できるように保守・点検を行います。医療機器を一括管理することで効率的で適切な運用ができるようにしています。

臨床工学技士は他の医療職種と比べて新しい資格であり、院内の様々な部署で活動する職種です。当院の臨床工学技士は日々進歩する医療分野や医療機器に対して積極的に取り組み、患者さんの診療に貢献していきたいと思っています。

がん相談支援センターの紹介

所属医療連携室
がん相談員　森 川　美 百

当院では、平成23年４月から地域がん診療連携拠点病院に認定され、医療連携室内にがん相談支援センターを開設いたしました。さらに、翌年平成24年４月から、専従のがん相談員を配置し、（1）がん相談（2）がん情報の発信（3）患者サロンを主軸に横断的に活動しています。開設して５年になりますが、相談数は年々増加しており、60～80件/月ほどの相談者へ対応しております。

また、昨年度から患者サロンも不定期ではありますが行っております。今年度からは年間計画を立て、参加される方が満足していただけるよう、より充実した内容で取り組んでおります。

【平成２８年度　患者サロン　にこにこ　年間計画企画書】

第１回	平成28年６月22日（水）	脱毛ケアについて（開催済み）
第２回	平成28年８月３日（水）	アピアランスケア（開催済み） 講　師：メディカルビューティセラピスト　松下　愛さん テーマ：「元気になるメイク」 時　間：14：00～16：00 場　所：実習室
第３回	平成28年12月10日（土）	サロン講座 講　師：消化器内科医師　川平　真知子医師 テーマ：消化器がんの化学療法について 時　間：10：00～11：00 場　所：多目的ホール：講座終了後に患者サロンを開催 時　間：11：00～12：00
第４回	平成29年２月１日（水）	リラクゼーション 講　師：日本笑いヨガ協会認定　笑いヨガリーダー 深見　和代さん テーマ：「ワハハ笑い体操でからだをゆるめよう」 時　間：14：00～16：00 場　所：多目的ホール

12月10日（土）当院多目的ホールにおきまして「消化器がんの化学療法について」
当院消化器医師の講座を開催いたします。
どなたでも自由にご参加いただけますので、ご紹介していただけますと嬉しく思います。

お知らせ

初診紹介患者予約を承っております。

紹介状をお持ちで予約された方を優先して
診察のご案内をさせていただきます。

紹介状をお持ちの方は事前に予約をしていただきますようお願い致します。

※月曜日は、予約・問合せ電話が多いので、できましたら月曜日を避けてご連絡いただけますと幸いです。
（緊急の場合はこの限りではありません）

※医療機関様からのご予約はFAXでも承っております。
FAX用紙は、鹿児島市立病院ホームページよりダウンロードできます。

予約専用ダイヤル

TEL:099-230-7103　FAX:099-230-7101

電話での予約受付時間は、平日の9：00～17：00となっています。

鹿児島市立病院だより　第23号
発効日：平成28年10月
発行者：〒890-8760　鹿児島市上荒田町37番1号
坪内　博仁　鹿児島市立病院長
担当者：医療連携室
電　話：099-230-7100　FAX：099-230-7101